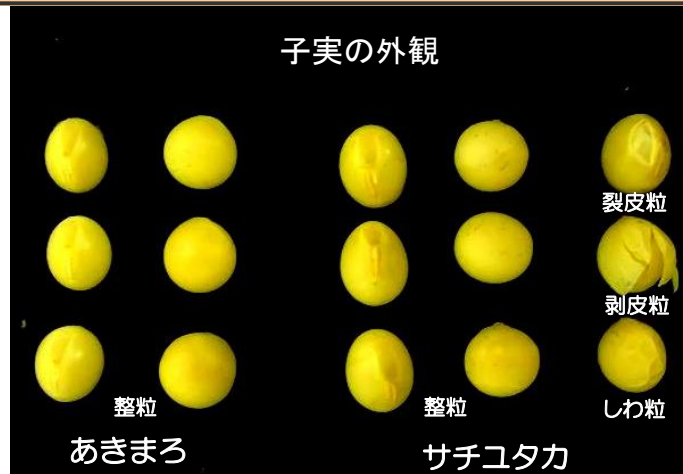


# 良質・多収の大豆新品种「あきまる」

広島県の大豆栽培では、播種適期が梅雨であるために播種が遅れ易く、減収を招きます。「あきまる」は遅播きでも多収で、着莢位置が高いため機械収穫しやすい品種です。子実は良質で糖が多く、味噌と煮豆に最適です。(独)近畿中国四国農業研究センター育成)



- 晩生種であるため、生育期間が短くなる遅播きでも、生育・収量を確保できる
- 遅播きの場合、密植(20.4本/m<sup>2</sup>程度)とすることで適期播き並みの収量が得られる
- 莢の着く位置が高く、機械収穫しやすい
- 「裂皮粒」・「剥皮粒」・「しわ粒」が少なく、遅播きでも大粒

広島県における「あきまる」の主な特性<sup>1)</sup>

播種時期	試験場所 (標高)	品種名	条間×株間 (cm)	成熟期 (月.日)	主茎長 (cm)	倒伏程度 (無-多)	最下着莢高 (cm)	収量 (kg/a)	大粒率 <sup>2)</sup> (%)
6月中旬 (適期播き)	東広島市 (224m)	あきまる	70×15	11. 3	74	少	22.4	46.7	83
		サチユタカ	70×15	10.23	53	微	15.3	43.0	87
	三次市 (210m)	あきまる	75×15	11.上旬	54	無	15.9	39.5	85
		サチユタカ	75×15	10.下旬	44	無	11.3	35.2	87
7月中下旬 (遅播き)	東広島市 (224m)	あきまる	35×30	11.11	53	少	12.5	40.5	95
		サチユタカ	35×30	11. 1	38	微	9.0	38.0	84
	安芸高田市 (180m)	あきまる	29×15	11.中旬	58	無	19.2	46.0	90
		サチユタカ	29×15	11.上旬	40	無	13.0	40.3	79

注1) 表中の値は東広島市の適期播きが2006~2010年、遅播きが2008~2009年の平均値。三次市、安芸高田市は2009~2010年の平均値

注2) 大粒率は、全粒重に占める粒径7.9mm以上の子実重割合

